

自然学校アンケート県下14市町391人の声を集約

「自然学校の期間は2泊3日に短縮してほしい」が204人と大多数!!

兵庫教組は6月から9月にかけて、「自然学校を考える あなたの声を聞かせてください」アンケートにとりくみました。アンケートにご協力いただいたみなさんお忙しい中ありがとうございました。

その結果、設問1の自然学校の期間については、「期間を短縮してほしい(2泊3日)」が204人と一番多く、次いで多かったのは「期間や内容は学校の判断を尊重してほしい」で77人でした。

設問2の実施する上で困ることでは、「指導補助員や特別支援補助員の確保」が262人と最も多く、次いで「児童の夜間の指導」が248人、児童の健康面の配慮と家庭との連絡240人、児童のメンタル面のフォロー239人と続きました。

また、設問3の自然学校についてのあなたの思いの自由記述欄は、230人の方が思いを書かれましたが、そのほとんどが「期間の短縮を含め、この行事の見直しを求める」内容でした。4泊5日の自然学校を肯定的にとらえ、今後も続けてほしいといった内容もわずかですがありました。

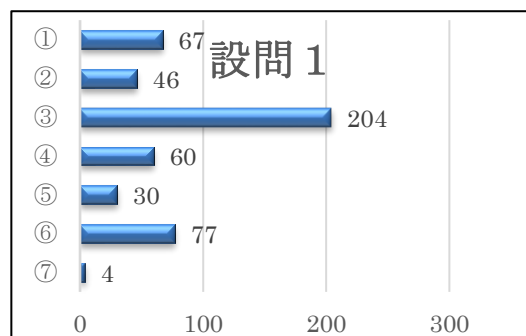
兵庫教組は、これらのアンケート結果をもとに、要請文書を作成し、実施主体である県教委義務教育課に対して「期間の見直し」や「困ることとして挙げた具体的な内容の改善」などを、予算措置も含めて強く求めています。

回答いただいた方の勤務市町 14市町

1神戸市	阪神					
	2尼崎市	3西宮市	4宝塚市	5川西市	6伊丹市	7猪名川町
	播磨東		播磨西	但馬	丹波	淡路
8明石市	9播磨町	10加古川市	11姫路市	12豊岡市	13丹波市	14淡路市

設問1 自然学校のあり方について 複数回答可

	回答項目	人数
①	今のまま、4泊5日でよい	67
②	期間を短縮してほしい(3泊4日)	46
③	期間を短縮してほしい(2泊3日)	204
④	期間を短縮してほしい(1泊2日)	60
⑤	自然学校は中止にしてほしい	30
⑥	自然学校の期間や内容は学校の判断を尊重してほしい	77
⑦	その他	4



自由記述から1

- 共働き家庭においては、自分が自然学校へ行くことによつての、家族への家事育児の負担が偏ることも大いに困ります。
- 保護者との連絡体制が、保護者→学校→自然学校の現場となるが、夜などの急な場合、個人もしくは管理職のスマホを使わざるを得ない場合がある。市から自然学校用としてスマホ等の貸与があるとよいと思う。
- 期間が長ければ途中で職員が入れ替わりますが、実施場所の交通の便が悪く大変。
- 自分の家庭の犠牲がすごく大きい。幼児や小学生がいても容赦なく宿泊を強いられる。
- 特別対応(不登校、健康的な理由、特別支援的な理由)が必要な児童への対応の難しさ。全員に十分な配慮をするだけの人員が足りない。(途中参加、途中帰宅の送迎、大人数での活動が苦手な児童への退避場所の少なさ等)
- 4泊5日という長期宿泊設定のため、もう何年も前から5年生の担任希望が限られてきています。育児中の方や介護中の方は特に、男女問わず5年生は担任できない・しにくいと断られます。担任したくても自然学校がネックとなり希望できないのです。結果、独身だからと若くてやる気はあるが経験の乏しい先生方で固められたり、男性のみの学年構成になったりという事もざらです。担任だけでは手が足りず、専科担当は言うまでもなく、他学年の担任にも手伝いの要請があり、結局他学年の子ども達の授業にも毎年毎年影響があります。管理職の先生方も毎年悩んでおられます。学校運営上、非常によろしくない状況であると思っています。人事や学校運営を圧迫している、そのような行事は本当に必要でしょうか。
- 教員が3日目に交代することによって、引き継ぎが大変だったり、自然学校から帰って次の日に他学年の授業をしたりと業務改善にあまりつながっていないと感じた。それならば交代せずに、五日間引率したい。

設問2 自然学校を実施する上で困ることについて 複数回答可

	回答項目	人数
①	自然学校の実施計画の作成	163
②	指導補助員や特別支援補助員の確保	1位 262
③	送迎バスの確保	118
④	外部との渉外	116
⑤	自然学校の予算計画の作成	139
⑥	アレルギー・健康面のアンケート調査とその整理	210
⑦	期間が長いため、児童のメンタル面のフォロー	4位 239
⑧	期間が長いため、児童の健康面の配慮・家庭との連絡	3位 240
⑨	児童の食物アレルギー対応	198
⑩	児童の夜間の指導(夜尿症対策対応等)	2位 248
⑪	自然学校期間中の校内の体制	188
⑫	実施後の会計業務	172
⑬	実施後の報告文書の作成	90
⑭	慢性的に超過勤務状況になっている	5位 225
⑮	超過勤務の割振り変更がとれない	140
⑯	その他、上記以外にあれば自由にお答えください	17

- ◆1位 指導補助員や特別支援員の確保
- ◆2位 児童の夜間の指導
- ◆3位 児童の健康面の配慮と家庭との連絡
- ◆4位 児童のメンタル面のフォロー
- ◆5位 慢性的な勤務状態

自由記述欄から
 ◇指導補助員に任せきれない(不安)
 ◇自然学校の意義は理解するが、現実問題として子育て世代は5年生の担任は難しい
 ◇多くの教職員の超過勤務でこの行事は成り立っている

自由記述から2

- 今は教員の業務負担という点で削減傾向にありますが、間違いなく4泊5日のこの自然学校のおかげで『勉強する』以外の繋がりや協力といった人として大切な力を学べていると感じています。ぜひ続けていってほしいなと思います。
- 4泊もしているが、他府県と比較して優位にこういう子どもが育っています、という成果がない。1泊で十分。
- 取り組み自体は児童たちにとって日常とは少し違う環境の中で様々な活動ができるため非常に有意義であると思います。一方の超過勤務や、校内の体制を整えるには人員の確保などの課題があると思います
- 私はこのイベントが好きなので4泊5日のままでいいと思いますが、それは完全に趣味の話です。教育的な効果や業務の適正化のバランスを考えた場合、短縮しかないと考えています。職員への負担が大きすぎます。職員の時間を搾取することで成り立っている恥ずべき制度かと思えます。
- 付き添い教員や担任が途中で交代する場合、交代日に現地、校内体制ともに手薄になる。行き帰りの交通手段も不便。だから担任は4泊5日全泊することになってしまい、5年生の担任のなり手が限られる。尼崎市の宿舎は2校で同時に使っているため、学校間の調整が必要であるし、児童同士とトラブルも心配。2泊3日であれば1校で使える。自然学校が2泊3日であれば、これらが解消される。
- 自然学校は子ども達にとって、自分のことは自分でできるという大きな自信に繋がるものだと感じます。しかし、特別支援学級の子どもにとってはその期間が大きな負担となっているのではないかと感じます。保護者の願いの多くは5日間行けるところまで行かしたいです。それは子どもの実情伴っていない場合が多いとも感じます。その判断をするのが引率する教員であることも大きな負担です。夜寝ない児童の付き添い、その後の活動や生活も全面的にサポートします。そこに帰るかどうかの判断もしなければいけないのはとても負担が大きいです。残された支援学級の教員も疲弊しています。1人欠けるだけで、現場が回らない毎日の中、5日間、教員がいません。学校でのサポート体制がないのに、5日間担任が1人欠けた状態で毎日の業務を行うのは残された側も不安が大きいです。
- 兵庫の特色にしていますが、他の県の教職員の方に話すと、ありえない！と言われます。私も4泊5日は今の子どもたちにもそぐわないと思います
- 途中で交代することで、子どもの成長が見届けられない。途中から交代しても、始まりを見ていないため、成長が感じにくい。もしそれがかなわないのなら、そもそもの泊数を減らすべき。
- 尼崎市は、基本的に「とちのき村」の施設を使うことになっているが、移動に時間がかかり過ぎる。特別支援学校相当の児童が地域の支援学級に入ることが増えており、その児童の参加の仕方も近場で、2泊3日であれば柔軟に対応しやすいのではないかと。時代や子どもに合わせた自然学校の在り方を見直していくべきだと思う。
- 兵庫県独自の自然環境との触れ合いの場としては、児童にとってとても貴重な体験の場となる。ただ、学校の現状によっては、実施方法に困難が生じる場合もあるので、実施方法を柔軟に選択することができることを望みます。

この速報では紙面の関係で自由記述の内容がすべて紹介できないことをご了承ください。記載していただいたみなさんの思いは、「現状肯定」の方の意見も含めて、すべて県教委に届けさせていただきます。

自然学校は実施期間の短縮を含めて見直すこと、また、各学校の判断を尊重すること!!